

第10回 兵庫便教会 報告

2015年12月12日(土)、12月とは思えない暖かい朝、第10回の兵庫便教会を芦屋市立精道小学校にて8名で活動いたしました。

初めて参加いただいた方が2名いらっしゃったことや、第10回の節目でもあるので、最初に鍵山相談役が社会の荒みをなくしたい思いをトイレ掃除に託し、今まで活動されてきたことや教師への期待を確認して掃除に取り組みました。神戸のI先生は用事のために9時に切り上げなければならないということで、8時から一人で掃除を始められていました。その姿勢に参加者一同感銘を受けました。



2Fの男子トイレを全員で掃除しました。一見綺麗なトイレではありませんでしたが、入ると臭いがしました。尿こしを取るとやはりそこには汚れがありました。「両手を使う」「道具を丁寧に扱う」「比較しない」「しゃべらない」をテーマとして、便器に向いました。誰も、何も話のない、トイレを磨く音だけが響く時間がありました。なかなか取れない汚れに力を入れて磨いても、汚れが落ちたとしても傷つくことがあります。何度も何度も磨いていく時間が大切であり、それは教育にもつながることなのだろうと思います。便器のあとは床に取り掛かりました。

乾式のトイレであったので、タワシで磨いたあとすぐにスポンジで拭き取りました。これも皆さん無言で対象物と向き合っておられました。

交流会では、次のような話が出ました。

- ・いつも子どもたちと掃除をしているけれど、「道具を大切に使う」ということは伝えきれていない
- ・学校の用務員さんがいつもトイレをきれいにしてくれ、必ずスリッパが揃えられていることを思い、自分が何もきていないことに気づいた。
- ・教頭という立場は、掃除の時間には職員室から離れられない状況なので、今は掃除ができていない。しかし、何かできることはあると思う。自分が掃除をしなればいけない。



- ・I先生の少しの時間でも掃除にやってくるという姿勢に、できないと思えばすぐにやめてしまう自分を反省した。
- ・尿こしを担当したが、なかなかとれなかった。積もった汚れは簡単にはとれない。日々の取り組みが大切である。

気持ちのよい朝の空気とトイレ掃除後の清々しさが心地よい便教会になりました。ありがとうございました。

(文責：木田重果)